



TITLE:

「振動子系の力学過程と統計」研究会

AUTHOR(S):

CITATION:

「振動子系の力学過程と統計」研究会. 物性研究 1964, 1(5): 343-343

ISSUE DATE:

1964-02-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/85563>

RIGHT:

研究会報告

「振動子系の力学過程と統計」研究会

昨年10月6日から9日まで基研で上の研究会が開かれました。その報告として単なる経過報告でなく、現状の分析と将来の問題に重点をおいて手分けして書くことになりました。まず戸田さんに総括をお願いし、これからやるべき問題について time-independent problems については堀さんと私、time-dependent problems については戸田さん、小寺さん、寺本さんが書くことにし、最後に小野さんにむすびをお願いしました。その結果連絡不十分なこともあつて重複などが起りましたが、著者のニュアンスの違いなどがうかがわれて編集し直すよりはこのまま掲載した方がよからうと云うわけで以下上の順序で並べてみました。(松 田)

「振動子系の力学過程と統計」研究会の総括

戸 田 盛 和 (教育大)

10月6日から9日まで、京都大学と基研で上記の研究会が開かれました。この研究会は第1回目ですが、昨年まで開かれていた「不完全結晶の格子振動の理論的研究」のあとをついで、更に発展させる段階です。「不完全結晶」の研究成果はプロGRESSのサブリメントとしてまとめられました。したがって今回は第1日目にこの研究の過去から現在までの成果と将来の研究課題が論じられました。

「不完全結晶」の研究会のときには、これに関連した実験などもほとんどなく、ただ、こういう問題を厳密に扱うことは誰かがやっていないと考える人達が集つて研究会をやつたのでした。しかし次第に実験にかかる事柄が気付かれ、昨今では不完全結晶の実験の方でも興味を持たれてい